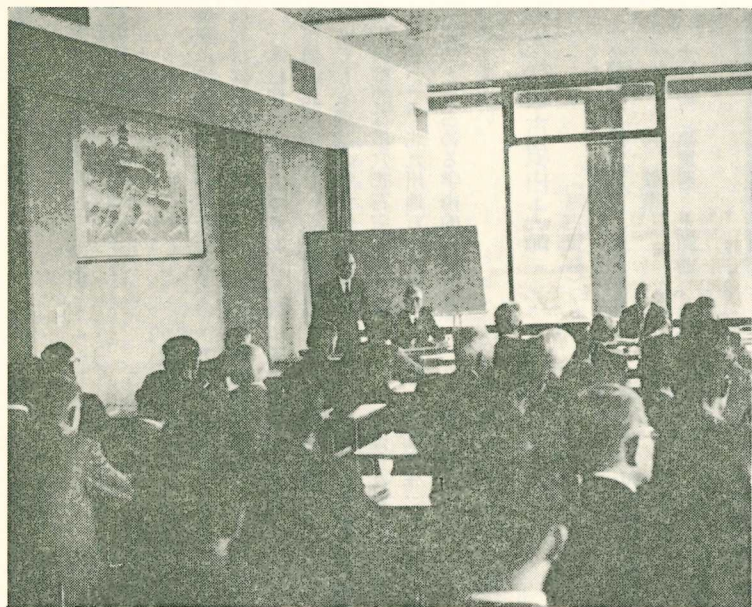


北九州市の文化財を守る会

会報

No.7 48.6.1

発行 北九州市の文化財を守る会
北九州市小倉区城内1-1
北九州市教育委員会文化課内
電話 582-2389



昭和48年度総会開く
会長に菊池安右衛門氏を再任
五月十二日午後三時から小倉市民会館で、昭和四十八年度総会が開かれました。
菊池会長の開会あいさつのおと昭和四十八年度予算案および同事業計画案などを審議し、いずれも原案のとおり可決しました。
また、任期満了に伴う役員人事のうち、総会決定事項である会長の選出を行ない、万場一致で菊池安右衛門氏を再任しました。

- 役員紹介
若松 久保田瑞一
八幡 美和弥之助
戸畑 福田 幸雄
安 敏
理事
若松 大田 章
八幡 木村 照彦
戸畑 福田 安敏
顧問
春永 孚
会長
菊池安右衛門
副会長
加瀬 康作
小林 安司
支部長
一条 高壘
門司 高壘
小倉 高壘
若松 繁樹
八幡 康作
戸畑 大雄
常任理事
石崎 巖
米津 三郎
監事
戸畑 松崎 武俊
大和 文
監計
戸畑 松崎 武俊
大和 文
(敬称略順不同)

昭和48年度事業計画

- 会報の発行
第7号(48.6.1),第8号(48.9.1),第9号(49.2.1)を発行します。
○バスによる文化財めぐり
第6回 6月下旬 下関市 募集人員 45人
第7回 10月中旬 市内 募集人員 45人
○文化財セミナー
8月上旬開催(市教委と共催)
内容は検討中
○文化財愛護クラブの結成

市の本年度文化財保護事業の概要

市の文化財保護対策は、ことしも前年度に引きつづき、保護の基礎となる諸調査を中心に取り組みこととしています。
○民俗調査
○文化財環境整備
○文化財指定期区域保護のための基礎資料の整備
○文化財説明板設置
○無形文化財および民俗資料保存団体の補助
○調査報告書の刊行
○文化財セミナーの開催
○郷土資料館特別展の開催
○文化財展の開催

催物案内

- 人形浄瑠璃文楽座(重要無形文化財)の公演
とき 7月8日 13時・17時の2回
ところ 戸畑市民会館
入場料 A券 600円 B券 300円
演目 平家女護島 曾根崎心中
出演 太夫・竹本越路大夫、三味線 竹沢弥七(いずれも重要無形文化財保持者)ほか
○韓国歴史の旅
本会会員の西部日本観光旅行社では韓国歴史の旅を計画し、会員を募集しています。
○文化財展の開催

事務局だより

▽さきの総会で本年度予算・同事業計画を決定しましたので、さっそくお知らせします。
▽本会発足以来、四年度となることは、内容の充実した事業を計画すべきですが、諸物価高騰のあおりで財政的に苦しく、これが精いっぱい事業です。
資源確保のため会費の値上げも検討しましたが、本年度はすえ置くことにしました。
○文化財展の開催

【広告欄】

あなたのための韓国へのおさそい

新たな日韓外交の進展にともない、私たちは、温故知新の文字どおりに、両国2000年の歴史を改めて学び、正しく自分を位置づける必要に迫られています。
特に関東の地は、古来韓民族との交流が盛んであり、このよく企画された韓国の旅でも、あなたが郷土の文化財

韓国・歴史の旅(4泊5日)

昭和48年8月17日福岡空港発、KAL利用、旅費59,000円、募集人員30名、7月16日メ切

(旅程)

- 第1日 KAL 304 福岡—ソウル(観光)泊
第2日 ソウル(観光)—大田—儒城 泊
第3日 儒城—扶余(観光)—大邱—慶州 泊
第4日 慶州(観光)—釜山 泊
第5日 釜山(観光) KAL 301—福岡

新羅の昔を訪ねて(3泊4日)

昭和48年10月13日福岡空港発、JAL利用、旅費45,000円、募集人員30名、9月12日メ切

(旅程)

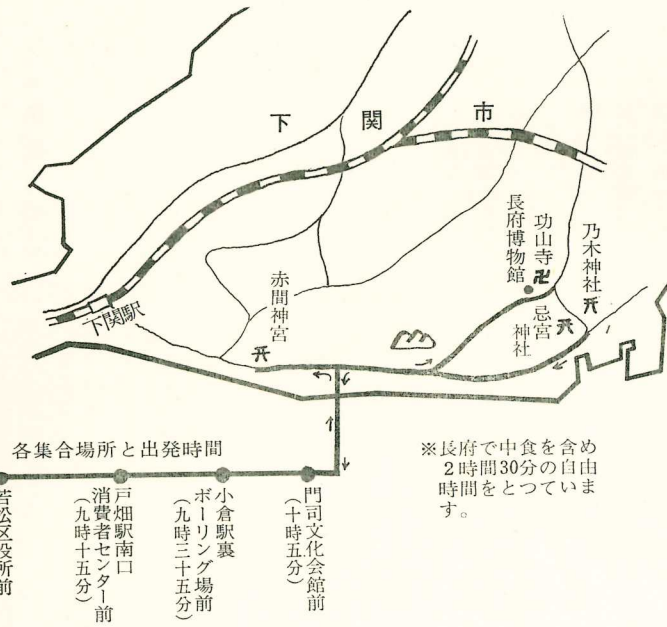
- 第1日 JAL 971福岡—釜山 泊
第2日 釜山—慶州(しらぎ祭) 泊
第3日 慶州(観光)—釜山 泊
第4日 釜山(観光) JAL 972—福岡
(詳細は資料をご請求ください)

お申込み・お問合せは

国際・国内旅行エージェンツ

株式会社 西部日本観光旅行社

北九州本社: 小倉区紺屋町12-21 勝山ビル (〒802) TEL 093-521-0200
門司営業所: 門司区本町1-17 山城屋旅行センター (〒801) TEL 093-331-5333



バスによる文化財めぐり

第六回のバスによる文化財めぐりは、土壠に囲まれ静かなたすまいをみせる長府の町を中心に、下関市の文化財を訪ねてみることにしました。ご希望の方は早めにお申込みください。日時、コースなどは次のとおりです。

◇ 日時 六月二十四日(日) 雨天決行

◇ 参加資格 本会会員(団体は一人三名様まで)ただし六月一日以降ご入会の方は今回は参加できません。

◇ 参加料 一人につき七百円

◇ 募集人員 四十五人(先着順)

◇ 締切日 六月二十日

◇ 申込方法 参加料を添え事務局にお申込みください

◇ 申込先 教委・文化課内本会事務局

◇ ※ 集合場所、出発時間、コースは左図のとおり

赤間神宮 源平壇の浦の戦いに敗れ、入水した安徳天皇をまつている。もともと阿弥陀寺といっていたが、明治の神仏分離令で寺を廃し赤間神宮となった。当神宮には重要文化財長門本平家物語、源平合戦図など、また境内には御陵七盛塚、耳無し若一像がある。

功山寺 創建は嘉暦二年(一三二七)といわれ、金山長福寺と呼ばれていたが、弘治三年(一五五七)毛利に敗れた大内義長がここで自刃し、大内氏の最後の地となった。その後、堂宇も荒廃していたが、毛利秀元が長府に入ってから修造し、毛利家の菩提寺となり寺の名も功山寺と改められた。境内にある仏殿は鎌倉末期の創建といわれ、鎌倉の円覚寺舍利殿とともに、わが国に残っている純唐風のものとして貴重な建築物であり、国宝となっている。その他当寺には、木造地藏菩薩半跏像(県指定) 山門(市指定)、毛利家の墓大内義長の墓などがある。

忌宮神社 長門二の宮、祭神は仲哀天皇、神功皇后、応神天皇、別宮に仁徳天皇、地主大神、武内宿弥。最近できた資料館には重要文化財、市指定文化財が展示されている。

長府博物館 歴史博物館として、明治維新関係の資料、乃木大将の遺品などが多いのが特徴。所蔵品は一万余点。

昭和48年度予算

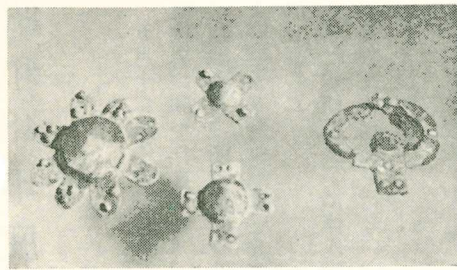
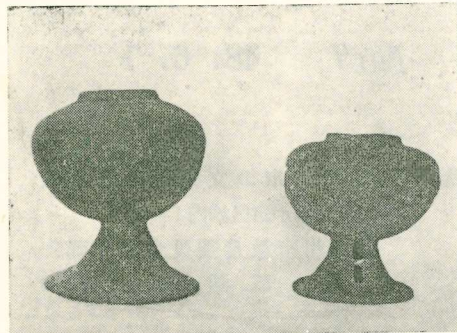
収入の部			支出の部		
費目	金額	明細	費目	金額	明細
会費	251,000	一般会員 200円×420人 84,000 賛助(個人)1,000円×100人 100,000 〃(法人)3,000円×16団体 48,000 団体(小・中) 500×24校 12,000 〃(高・大)1,000×7校 7,000	報償費	6,000	文化財めぐり説明員謝金 3,000円×1人×2回 6,000円
雑収入	90,000	文化財めぐり参加料 500円×45人×2回 45,000 セミナーテキスト代 100円×150人 15,000 広告料 30,000	旅費	5,000	事務連絡等旅費 5,000
利息	1,007		需用費	210,000	文具費 5,000 清掃用具購入費 30,000 文化財愛護ワッペン作成費 20,000 会議お茶代 5,000 会報等印刷費 150,000
前年度繰越金	67,993		役員費	55,000	通信費(切手・ハガキ代) 50,000 振替手数料 5,000
合計	410,000		借上料	75,000	バス借上料 70,000 タクシー借上料 5,000
			事務局費	50,000	臨時事務員賃金など 50,000
			予備費	9,000	
			合計	410,000	

新指定文化財の紹介

市では三月二十一日、次の三件の文化財を新しく市指定文化財に指定しました。これで市指定文化財は十三件となりました。

一本松塚古墳(史跡)

この古墳は、現在北九州市における唯一の装飾古墳である。昭和二十五年に発掘調査が行なわれたが、その時、前室床面に多くの須恵器、土師器、馬具、武器などが、本来の副葬状態のままに配列されていたのが発見され、古代祭祀の実態が把握された。全長六・三五米の複室構造で、後室・前室・羨道の三部に分かれている。周壁には大形石材を立て腰石とし、さらに上方に石材を平積みしている。床は礫を敷きつめ



一本松塚古墳出土品

奥壁には朱色を用いて合計九本の放射状線を描いている。一本松塚古墳は九州における装飾古墳の北限であり、石室構造においても須恵器の示す年代とあわせて典型的な横穴式石室構造を保存している。北九州地方の後期古墳研究上に占める学術的価値はきわめて大きい。

一本松塚古墳出土品

- (考古資料)
- 金属器 鉄製馬具 金銅製馬具 鉄鏃
 - 土器 須恵器 土師器

玉類 ガラス製大玉 コハ
ク製玉 空玉

太刀(工芸品)

この太刀は、小倉藩主小笠原忠雄が天和二年(一六八二)郷土の刀工・紀友行に命じて作らせ、八坂神社に奉納したもの。年紀を刻んだ郷土刀工の作としては最も古く、美術的価値も高い。

雄劔一振奉納新羅大明神
武運長久祈所源忠雄
天和二年二月吉日 豊前小倉住友行

市指定文化財一覧

- 建造物
 - 寿命の唐戸
- 工芸品
 - 鰐口(西大野八幡神社)
 - 鰐口(慈濟寺)
 - 太刀(到津八幡神社)
 - 太刀(八坂神社)
- 考古資料
 - 一本松塚古墳出土品
- 無形文化財
 - 楠原踊
- 民俗資料
 - 豊国名所
- 史跡
 - 火魔封火打釘の用具および行事形式
 - 曲里の松並木
 - 小田山古墳群
 - 上ん山前方後円墳
 - 一本松塚古墳

昭和47年度決算報告書

収入の部				支出の部			
予算額	金額	金額	明細	予算額	金額	金額	明細
会費	285,000	240,000	一般会員 200円×420人 84,000 賛助(個人)1,000円×94 94,000 〃(法人)3,000円×15 45,000 団体(小・中)500×22校 11,000 〃(高・大・一般)1,000×6団体 6,000	報償費	27,000	1,500	映写技師謝金 1人 1,500円
参加料	48,000	19,200	バスハイク参加料 第1回 6,000 〃 第2回 13,200	旅費	6,000	7,130	事務連絡等旅費 1,340 セミナー講師宿泊費 5,790
雑収入	0	14,600	夏期文化財セミナーテキスト代 14,600	需用費	150,000	164,374	文具費 5,724 会報等印刷費 155,500 会議お茶代 3,150
利息	1,878	995		役員費	50,000	65,440	通信費 64,230 振替手数料 1,210
繰越金	110,122	110,122	昭和46年度繰越金	使用料	115,000	38,620	バス借上料 36,000 タクシー等借上料 2,420 通行料 200
合計	445,000	384,917		事務局費	33,000	39,860	賃金 延25日 33,860 職員日当 延7人 6,000
				予備費	64,000	0	
				繰越金	0	67,993	
				合計	445,000	384,917	